



校長よりメッセージ

校長 尾崎 淳一

私の顔を見ればすぐに分かることですが、私は元・国語教師です。そこで、今からためになる古典の話をしたしたいと思います。

竜北生の皆さんは、「随筆 (ずいひつ)」という言葉を知っていますか。「見たり聞いたりしたこと、心に浮かんだことなどを、自由な形式で記した文章」のことです。日本には有名な「三大随筆」があり、『枕草子』『方丈記』『徒然草』がその三つです。

- ① 『枕草子』: まくらのそうし。作者は清少納言 (せいしょうなごん)。西暦1000年頃に成立。作者が宮廷に仕えていたときの体験や感想が、瑞々しい感性で記された作品。「春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、すこし明りて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。」で始まる。
- ② 『方丈記』: ほうじょうき。作者は鴨長明 (かものちょうめい)。鎌倉時代の初期、1212年に成立。日本人の無常感(「世の中は常に変化するもので、いつまでも同じものはない」という考え)を表現した作品。「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。」で始まる。
- ③ 『徒然草』: つれづれぐさ。作者は兼好法師 (けんこうほうし)。鎌倉時代の末期、1330年頃に成立。作者の無常感に基づく人生論や知識・教養に基づく趣味論、過去の回想などが記されている。「つれづれなるままに、日暮らし、硯(すずり)に向かひて、心に移りゆくよしなし事を、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。」で始まる。

『枕草子』は教科書にも載っていますし、「三大随筆」は入試等で出題されるかも知れないので、この機に覚えておいて損はありません。しかし、竜北生の皆さんは、「四大随筆」として暗記してください。その四つ目は、今年の「本屋大賞」候補の作品です。↓

- ④ 『校長よりメッセージ「竜北生、Go!!」』: 作者はMJこと尾崎淳一 (おさきじゅんいち)。西暦2025年に成立。作者が優しい目で「竜北生」の姿を見つめ、素敵な場面を切り取って褒め称える内容の作品。作者の性格を反映して、真面目で堅苦しい文体が特徴である。毎週1回、ひっそりと竜北中HPにアップされている。必ず、「竜北生、Go!!」で結ばれる。

さて、新学年も2週目です。先週の入学式・始業式で、私は次のような話をしました。



さて、真っさらな気持ちで「竜北ライフ」をスタートする新1年生の皆さんに、一つだけお願いがあります。竜北中学校の3年間で、ぜひ自分の「得意なこと」を見つけてほしいのです。人は得意なことが一つあると、自信となり、仲間とつながり、人生を豊かにすることができます。勉強でも運動でも趣味でも、何でも構いません。

私にも、「得意なこと」があります。それは私の外見からすぐに想像できるように「ソフトテニス」です。ソフトテニスがあったからこそ、私は多くの仲間を作ることができました。今でも、部活動の教え子と集まったり、「竜北教職員ソフトテニス部」の若手教員とプレーしたりして、充実した時間を過ごし、若さを保っています。皆さんも、この竜北中学校で、「得意なこと」を見つけてください。自分の得意なことを生かして、澆漑(はつらつ)と活躍する皆さんの姿を楽しみにしています。

736名の「竜北生」一人一人が「よさ」や「得意なこと」を発揮し、自分も仲間も大切にできる温かい学校を目指していきましょう。期待していますよ。「竜北生、Go!!」

竜北中学校長の尾崎淳一です。皆様との「一期一会」に感謝し、竜北中に関わる全ての人が、「共に学び、育ち、たのしむ」学校を創りたいと考えています。ご支援願います。

(令和8年4月13日)